2004
# ピッポ新聞
3
No.185

子どもの本専門店
ピッポ
年間購読料（送料込み）1500円
編集・発行　伊藤倭男
〒424-0886　静岡市清水草薙1-6-3
TEL & FAX　0543-45-5460
URL　http://www.pippo .co.jp
Email　pippo@diana.dti.ne.jp

## 私だけの野菜を育てる

「源助ダイコン」「女山三月ダイコン」「黒田五寸ニンジン」「長崎唐人奈」こんな名前を耳にしたらかなり印象に残るのではないでしょうか。実はぼくもそうだったのです。これは最近出版された『岩崎さんちの　種子採り家庭菜園』（岩崎政利　1680円　家の光協会）のなかで紹介されていた野菜の名前です。

ぼくはこの本の写真で「源助ダイコン」や「女山三月ダイコン」というのを初めて見たのですが、二種類とも随分個性的なダイコンです。「源助」の方はずんぐりむっくりした小振りのダイコンで、少家族向きだし、「女山」は色が赤紫で細めのダイコンで、江戸時代から栽培されていたものだそうです。

普段わたしたちは、野菜の固有名詞まで意識することなどほとんどありませんね。ダイコンはダイコン、ニンジンはニンジンということで、八百屋やスーパーから買い求めているのですからね。昔の人だってこれは変わらないと思います。ダイコンはダイコンと言うだけだった思います。

しかし、昔と今では大きな違いがあるのですね。昔は購入した野菜は、そのほとんどがその地域で育ったものだったのではないでしょうか。ところが、今では流通手段の変革によって、日本各地はもとより外国からも輸入された野菜が店頭に並んでいるわけです。そこで売られている野菜は見てくれが良いとか、長持ちすることなどが優先され、味（独特の風味や辛み甘み）とか季節感などは遠くに退けられてしまったのです。

生産者である農家も、大量に収穫出きることや病気に強いことなどを優先させた結果、かつては自分たちが育てた野菜から自分の手でタネを採取していたのが、大手の種苗会社から入手するということに変わってしまったのだそうです。こんな考えが、いき着くところまで言った結果が、アメリカの遺伝子組み替えの大豆やトウモロコシなのではないでしょうか。

この本で岩崎さんは、野菜はたとえタネを他からもってきたとしても、何代か繰り返し育てているうちに、その土地に適した野菜になってゆくのだと言っています。これを固定種と呼ぶのだそうです。一方昔からその土地で大事に育てられてきた野菜を在来種というのだそうです。京野菜などは在来種の代表です。

ぼくがこの本の中で岩崎さんに惹かれたのは、何よりも野菜作りを楽しんでいることが伝わってきたからです。タネを取る方法もイラスト付きで公開しているのですが、ダイコンのタネなどは堅いのでゴザを敷き、軽トラックで踏んで採るのだそうです。面白いですね。ですから、この本はハウツー本としてもとても役立つのです。

現在、食に関する問題点が様々な場所で露呈していますが、こんな形で農業に取り組んでいるひとたちがいることを知ってなにやらちょっと明るい気持ちになりました。ぼくも十数年家庭菜園をやったのですが、借りていた畑が駐車場になって以来やっていませんでしたが、これを読んだら再び野菜作りに挑戦したくなりました。

今回この本を取材し纏めた里内藍さんは、『園芸図鑑』『冒険図鑑』『自然図鑑』を福音館書店から出し、雑誌サライに毎号「徒然庭仕事」を連載していますが、野菜のタネに焦点をあてたのはさすがだと思いました。子どもの本ではありませんが、本書は当店に置いてあります。

# ねー、この本よんだ？

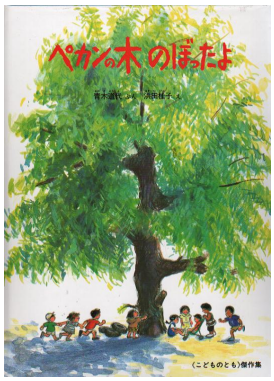
こどものとも傑作集が3冊出ました

『まゆとおに　やまんばのむすめ まゆのはなし』（富安陽子・文　降矢なな・絵　８４０円　福音館書店）

まゆは出会ったおおきな人の家についていきます。大きなひとは鬼で、お腹が空いていたのでまゆを食べようとしていたのです。おおきな人はまゆを食べるために準備をはじめます。まゆはそれを手伝うのです、目の前の松の木を蹴り倒して薪を作ったり、岩壁を蹴って、石を落としてかまどの土台にしたりというふうにね。これを見て鬼はビックリです。なにしろね、まゆは山姥のむすめですからね。鬼はどうなったとおもいますか・・・。

『しげみむら おいしいむら』（カズコ・G・ストーン・作　８４０円　福音館書店）

「やなぎむら」おはなしシリーズの５作目です。しげみむらのみんなはお菓子作りがとても得意です。きょうはしげみむらの「のはらのおかしや」の開店です。村のみんなはそのための準備で朝から大忙しです。開店したお店にはたくさんの客さんが来てくれ、大繁盛です。一段落したところで、やなぎむらからバースデー ケーキの電話注文は入りました・・・。

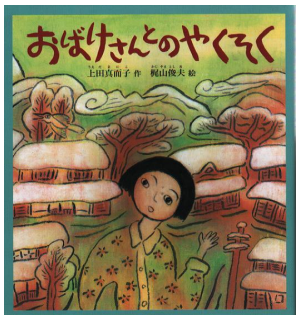



『ペカンの木のぼったよ』（青木道代・文　浜田桂子・絵　８４０円　福音館書店）

みっちゃんが幼稚園に来る途中で見たネコのことをりんちゃんに話したら、そのネコのいる原っぱをペカンの木に登って眺めることになったのです。でも、りんちゃんは自分で体を余り動かすことができない病気なのです。そこで、みんなに応援されて、はるこせんせいがおんぶしてのぼったのです・・・。

『しあわせいっぱい荘にやってきたワニ』（アーシュラ・ウィリアムズ・文　吉上恭太・訳　堀川理万子・絵　１２６０円　福音館書店）

船乗りのジョニーは航海のたびに、大家さんのミネアポリスに色々珍しいおみやげを持って帰ってくるのです。ところが今度のおみやげは名前はキティーとかわいらしいのですが、何と大きなワニだったのです。初めは怖がっていたミネアポリスさんでしたが、慣れて来るに連れて、とても可愛がるようになりました。ところがある時、ワニのきばを磨いていたミネアポリスさんは、お腹の中にのみこまれてしまったのですから大変です・・・。



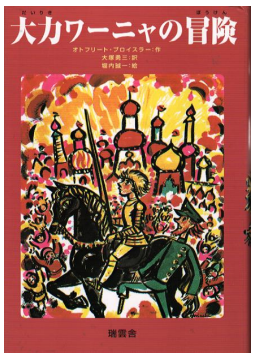

『おばけさんとのやくそく』（上田真而子・文　梶山俊夫・絵　１４７０円　福音館書店）

これはエンデなどのドイツの子どもの本の翻訳家である上田真而子さんが、子ども時代の心象風景を童話として綴ったものです。季節ごとに４編の短いお話になっています。表題にもなっているはじめの「おばけさんとのやくそく」は崖のそばにある便所の天井に何だか黒いシミのようなものがあり、これがおばけだと思いこんだ主人公はトイレにはいることがこわくてしょうがないのです。ところがあるとき、このおばけとある約束をすることによってトイレに行くきもちがかわったのです・・・。素朴な生活のなかに家族との暖かな暮らしが伝わってきます。

『鳥の巣　月刊たくさんのふしぎ４月号』

（鈴木まもる・作　７００円　福音館書店）

普段私たちは鳥の巣など余り目にすることがありませんが、この作者の鈴木さんは鳥の巣を観察するために、世界のあちらこちらに出かけているのです。そこで見つけた様々な鳥の巣を紹介してくれたのがこの本です。鳥というのは素晴らしい建築家なのですね。クモの糸を使って葉を縫い合わせて作った巣、敵を誤魔化すために偽の入り口を作ったり、長さ7メートル巾4・5メートルなどという巨大な鳥の巣のアパートを作ったり、水の中に１５００キロの石の土台を積み上げたりした巣など、本当に驚くことばかりです。岩崎書店から「鳥の巣の本」という図鑑も出ています。

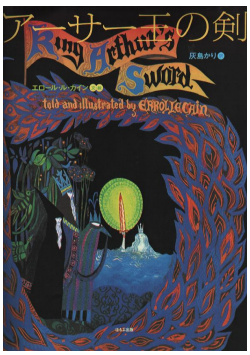



『大力ワーニャの冒険』（オトフリート・プロイスラー・文　大塚勇三・訳　堀内誠一・絵　１５７５円　瑞雲社）

「大どろぼうホッツェン・プロッツ」や「クラバート」の作者プロイスラーはドイツを代表する児童文学作家です。この「大力のワーニャ」は学研で出ていましたが、去年復刊されました。ロシアの昔話をもとにした物語で、不思議な老人が予言したように、怠け者のワーニャが暖炉の上で、ヒマワリのタネを食べながら7年間を過ごし、大力を得たのです。そこで、皇帝になるため旅に出ます。ワーニャの行く先々では難関がまちかまえているのですが一つ一つそれを乗り越えて進んでいくのでした・・・。これはとっても面白い冒険物語です。

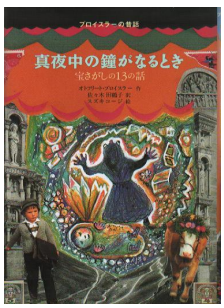
『魔女の宅急便　その４　キキの恋』（角野栄子・文　佐竹美保・絵　１５７５円　福音館書店）

キキは夏休みになってトンボさんが戻ってくることを楽しみにしていたのですが、トンボさんから手紙が届き、戻らずに雨傘山に籠り観察をすることになったのです。キキは段々不機嫌になっていきます・・・。キキとトンボさんの心の成長を描いた第４巻です。




『アーサー王の剣』（ル・カイン作　灰島カリ・訳　１４７０円　ほるぷ出版）

アーサー王が深い森で道に迷って湖にでた、そこで美しい姫からさずけられたのがエクスカリバーという魔法の剣。この剣はアーサー王の望みをなんでもかなえてくれるのでした。剣のおかげで、アーサー王はどんな戦いでも向かうところ敵なしでした。ところが、姉である魔女モルガンはエクスカリバーの剣をアーサー王から奪うくわだてをしたのでした・・・。古くから伝わるアーサー王伝説の一つをエロール・ル・カインが絵本にしたもので、彼のはじめての絵本ということです。




『真夜中の鐘がなるとき　プロイスラーの昔話1』（プロイスラー・文　佐々木田鶴子・訳　スズキコージ・絵　１３６５円　小峰書店）

プロイスラーがドイツとその周辺の昔話を集めて、筋道をとのえたり、語り口をやさしくなおしたりしたのが本書です。各お話のはじめにプロイスラー自身が子ども達のために解説を書いています。この本には宝探しをテーマにした話が13話収録されています。この他に同時に『地獄の使いを呼ぶ呪文　プロイスラーの昔話2』（悪魔と魔女の13の話）『魂をはこぶ船　プロイスラーの昔話3』（幽霊の13の話）の計3冊出版されました。

『冬のデナリ』（西前四郎・作　９４５円　福音館文庫）

４ページ1段目に続きます

厳冬のデナリ（マキンレー山）の登頂に初めて成功した国際隊の一員として参加した著者が、その登山隊が編成されるさまや、過酷な登山の様子を自分に置き換えてジローという第三者を登場させて描いた作品です。これは以前に福音館日曜日文庫（四六判）として出ていたのを、今度福音館文庫として出し直したものです。

## インフォメーション

＊４月の「ばあやのおはなしかご」はお休みです。

＊山菜採りを兼ねて、春の山を散策しませんか
４月25日（日）午前10時富士見峠集合
以下詳細は参加者にお知らせいたします。
参加ご希望の方は４月20日までにピッポ（０５４３-４５-５４６０）まで申し込んでください。

## 編集後記

3月はやっぱり春の便りが嬉しい。釣り友達が赤石渡に入渓してアマゴとイワナの尺上を釣ったという知らせ。（ホントかな?）雪中の釣りだったという。さて、今年の春山はどうだろうか？　おじさんの春は忙しいのである！

## 「かがくのとも」４００号記念

生き物の世界は驚きでいっぱい
自然どきどきどうぶつ・こんちゅう20選

## ４月発売！

| 書名 | 著者 | 定価（税込み） |
|---|---|---|
| のうさぎ | 高橋喜平・文　藪内正幸・絵 | 880 円 |
| らいおん | 金尾恵子・作　増井光子・監修 | 880 円 |
| こうもり | 義行瑞子・文　山本忠敬・絵 | 880 円 |
| くまげら | 有澤浩・文　藪内正幸 | 880 円 |
| あそぶ　にほんざるのくらし | 水沢洋城・文　木村しゅうじ・絵 | 880 円 |
| かいつぶり | 石部虎二・作　須川恒・監修 | 880 円 |
| こがねぐも | 甲斐信枝・作　八木沼建夫・監修 | 880 円 |
| むしがとぶ | 栗林慧・作　杉浦範茂・AD | 880 円 |
| いもり | 金尾恵子・作　川村智治郎・監修 | 880 円 |
| モンシロチョウはなにがすき？ | 藤井恒・文　たかはしきよし・絵 | 880 円 |
| とっくりばち　どろですをつくるはちのなかま | 吉谷昭憲・作 | 880 円 |
| だぼはぜ　よしのぼりのぼうけん | 林公義・文　吉崎正巳・絵 | 880 円 |
| きたもりのシマリスくん | 川道美枝子・文　金尾恵子・絵 | 880 円 |
| みずのうえでくらすむし　あめんぼ | 吉谷昭憲・作　立川周二・監修 | 880 円 |
| とんぼ | 吉谷昭憲・作　松木和雄・監修 | 880 円 |
| いもむしけむし | 澤口たまみ・文　藤枝つう・絵 | 880 円 |
| かたつむり | 夏目義一・作　三枝博幸・監修 | 880 円 |
| つくったの　だれ？ | 山口進・文・写真 | 880 円 |
| かみきりむし | いまもりみつひこ・文・写真 | 880 円 |
| 162 ひきのカマキリたち | 得田久之・作 | 880 円 |
| | | |